

これまで、どんな医療でも、どんな宗教でも教えてくれなかった
「死んだら、どうすればよいのか？」という問いに、
自然医学と前世療法の知見からお答えします！

黄泉医学

死に方の極意

医療法人愛香会奥山医院院長

奥山輝実

山川亜希子〔推薦〕



ヒカルランド

死に方の極意

死ぬと悟れば

忘食もよし

忘眠もよし

忘友もよし

死んだら

光へ向かおう

神を呼ぼう

笑顔を選ぼう

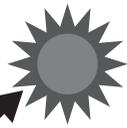
死者を弔ったら

少食で精進しよう

信念で背中を押そう

善行を語り明かそう

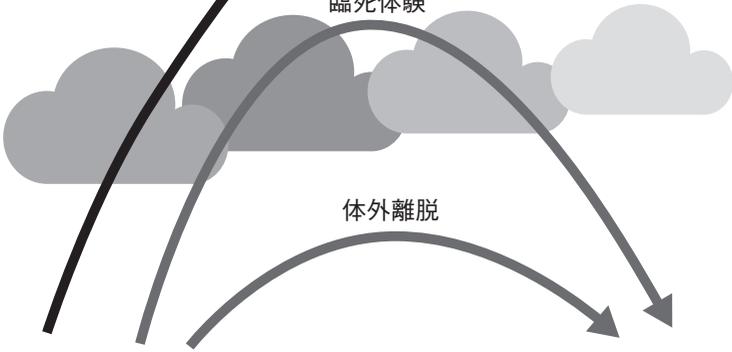
光の前世療法の視点



死

臨死体験

体外離脱



プロローグ

生老病死 この世に生まれれば、いつか必ず死を迎えます。

超高齢化社会となり、死を迎えた人たちも急増しています。

死とは何でしょうか？

死んだらどうなるのでしょうか？

医学部では、生老病は教えてくれますが、死は教えてくれません。

医療は、死を宗教へ丸投げしてきました。

その宗教も、死と真摯しんしに向きあえないままに、死は多様な変容を遂げてしまいました。

医療も宗教も、死に置いてきぼりにされました。

この世には必ず死があります。

あの世の神々には死はありません。

この世は、神々が死を体験するためにあります。

神々が死を楽しむために乗り込む乗り物が人間です。

この世が神々の遊園地なら

コーヒーカップの人生

ジェットコースターの人生

お花畑の人生やお姫さまの人生

お化け屋敷の人生も地獄めぐりの人生も

海賊の人生にアラビアンナイトな人生も

終わりがあるから、次を楽しめます。

体外離脱や臨死体験、前世療法で死を疑似体験した人が増え、死の全貌ぜんぼうが見えてきました。

死とは、この世の遊園地からの帰り道です。

遊園地の話で盛り上がりながら、いろいろな余韻に浸りながら、あの世への帰り道を間違えないように、迷わないように見送るのが「黄泉医学」です。

楽しかった、おもしろかった、ドキドキした、感動した……そして、また来たい！

この世のみなさん、ひとりひとりの中に宿っている神さまに喜んでいただけるように、
8000症例の「光の前世療法」から見えてきた「黄泉の道」を語らせていただきます。

第1章 死んだらどうなるの? :

死のステップ1 死んだことに気づこう 14

死に方の極意 その1 死んだことに気づきましょう。 18

前世物語① 幸せパン 18

◆ 死に方の秘伝 この死に方だけは避けましょう 26

◆ 死に方の秘伝 善き死に方をしましょう 33

死のステップ2 想念の現実化 初級コース 33

死に方の極意 その2 想念の現実化を楽しみましょう。 37

前世物語② 修行 37

死のステップ 3	想念の現実化 上級コース	44
死に方の極意 その3	今生を悔やむな!	48
前世物語③	殉教	48
死のステップ 4	病院での死	55
死に方の極意 その4	病院で死ぬな!	59
前世物語④	不幸の呪い	59
死のステップ 5	自死	74
死に方の極意 その5	自死はつらいよ。	77
前世物語⑤	自死	77
死のステップ 6	邪念の罟	84
死に方の極意 その6	ハグしてみよう。	86
前世物語⑥	歌姫	86
死のステップ 7	夢枕	95
死に方の極意 その7	笑顔の記憶を残そう。	100
前世物語⑦	どん底のチャンス	100
死のステップ 8	水子の話	107

死に方の極意 その8 最後までがんばろう。 112

前世物語⑧ 龍の子 112

死のステップ9 人生の節目 126

死に方の極意 その9 人生の節目から学ぼう。 131

前世物語⑨ 自然医学 131

死のステップ10 病の意味 138

死に方の極意 その10 死病に感謝しよう。 143

前世物語⑩ 難病の子ども 143

死のステップ11 悪役の魂 151

死に方の極意 その11 悪役に感謝しよう。 157

前世物語⑪ 父を憎む 157

死のステップ12 天職 164

死に方の極意 その12 ゴシゴシ磨こう。 169

前世物語⑫ 人生の岐路 169

死のステップ13 ソウルメイト 178

死に方の極意 その13 ソウルメイトに磨いてもらおう。

前世物語⑬ 柿の実 183

死のステップ14 孤独 194

死に方の極意 その14 孤独から自由になろう。 199

前世物語⑭ 影法師 199

死のステップ15 失敗の意味 205

死に方の極意 その15 失敗にチャレンジしよう。 212

前世物語⑮ 男の性・女の性 212

死のステップ16 天の壁 219

死に方の極意 その16 壁を消そう。 225

前世物語⑯ 祝福の鐘 225

死のステップ17 大いなる光 233

死に方の極意 その17 光の化身を感じ取ろう。 241

前世物語⑰ 魂のルーツ 241

死のステップ18 愛と知恵 248

死に方の極意 その18 欲を卒業しよう。 264

前世物語⑱ 理想郷 264

死の迎え方①	病院で死にますか？	280
死の迎え方②	苦痛は嫌だ！	285
死の迎え方③	もう治療は結構です！	292
死の迎え方④	ムリに食べさせるな！	296
死の迎え方⑤	よく眠りましょう	299
死の迎え方⑥	自然医学の死	302
死の迎え方⑦	孤独死の仕方	320
死の迎え方⑧	輪廻転生	326
死の迎え方⑨	光の前世療法と死	332
死の迎え方⑩	死ぬ準備	339

第3章 死んだ人の弔い方

エピソード 357

参考図書 362

第1章

死んだらどうなるの？



死んだことに気づかない



みなさんは、死んだことがありますか？

光の前世療法では、過去生での死の場面を必ず見ていただきます。

「えー 死ぬなんて怖い！」 って……大丈夫ですよ。

死ぬ場面を何度も体験しているうちに、原因不明で難治性だった心配性や不安恐怖症、うつ病などが自然に治ってしまった経験を数多く見てきましたが、「ますます死が怖くなつた」と言った人は、ひとりもいませんのでご安心を。

光の前世療法での死の場面では、あなたの意識は過去生のあなたとシンクロしています。それは、子どもが絵本に夢中になって白雪姫や仮面ライダーになりきるのと同じです。過去生というイメージの中で、擬似的に死の体験をしていただけます。

ガイドしている私が宗教家なら、いくらでも我が宗教の教えどおりに死のプロセスをたどるように誘導できますが、「死の場面を見て、死の場面を通り抜けます。魂が身体から離れます。身体はどこから魂が抜け出ましたか？」と、まったく宗教色なし、すっぴんの状態で死の場面を通り抜けていただきます。

死の場面とそれに続く中間生のプロセスは、絶好の信者洗脳ポイントなのですが……無頓着な私だったからこそ、光さんは8000症例も任せてくださったのでしょうか。

ちなみに、身体はどこから魂が抜けるか？ ですが、頭から・胸から・身体全体からフワッと抜ける、がトップ3です。魂が身体を離れて宙に浮いているのに、まだ「死んだこと」に気づいていない魂もいます。そんな時には、「下を見て。死体が見えますか？」とガイドして、魂に死んだことに気づいていただきます。

有名なイタリアオペラ「アイダ」の主人公アイダとラダメスのように、地下牢に生き埋めにされて亡くなった過去生の魂が、地下牢から抜け出せないと信じ込んでいたために、数千年を経た今までずっと、地下牢の中を漂っていた症例もありました。

「もう肉体から離れたのだから、石壁をすり抜けることができますよ」と教えてあげると、

ふたりの魂は喜びながら天へと帰っていきました。

死に方の極意の最初は、「死んだことに気づこう」です。

数千年も閉じ込められていたなんて、かわいそう……

肉体を持って生きている私たちの次元からすれば、確かに数千年間ですが、肉体を離れた魂の次元からすれば、それは「昨日」のことであって、長く苦しんだ、さまよい続けてしまった、という悲壮感はありません。そもそも死んで肉体を離れた瞬間に、時間の束縛（呪縛と言ってもよいでしょう）から自由になれます。そこは日が昇り、日が沈むのも、春夏秋冬の移ろいも、肉体の老化もない世界。いつも「今」で、絶えず「今」しかない世界です。

では、魂には「今」しか見えないのでしょうか？

魂は時空間を超越しています。その超時空間では、魂が望むどの時代、どんな場所にも瞬時に移動することができます。

「今」しかないけれど、過去・現在・未来・平行次元（パラレルワールド）のすべてをオ

ールインワンにした「今」に魂は浮かんでいるのです。

病氣や大災害の時は「ああ 私は死んだのだなあ」と魂も実感して納得しますが、交通事故や心筋梗塞こうそくなどの突然死の場合は「あれ？ どうなってるの？」と、自分が死んだことになかなか気づけません。

私たちは超高齢化社会の中にいます。認知症のまままで亡くなってしまつて「ここはどこ？ 私は誰？」な意識状態のままの魂も急増しています。

まるで夢見心地でふわふわ浮かんでいるような……

幽体離脱したかのように、寒暖も衣服も身体も感じない……

昼なのか夜なのかよくわからないボワツとした灰色に包まれた空間にいる感じが……

そんな時は、まず下を見て（下だと思ふ方向）、そこにどうも死んでしまったような自分の肉体が横たわっていたら「私はもう死んでいる」と気づきましよう。

死んだことに気づきましょう。

前世物語① 幸せパン

昔々、まん丸顔のソバカスがかわいい赤毛の女の子が、黒い森に囲まれた町に住んでいました。

立派な塔がそびえる教会が、その町の人たちの誇りです。

女の子の名前は、マリー。

優しくてちよっぴり背の高いお母さんと、太っちょでサンタクローズのようなヒゲが自慢のお父さんと、小さな石造りの家で暮らしていました。

お父さんは、パン屋さん。とても美味しいと評判なのがマリーの幸せでした。

お母さんは、薬草博士！（とマリーは呼んでいました）。お母さんと森に薬草取りに行

くのが大好きでした。だって、お母さんは甘い甘い木の实を探し出す魔法使いなのですもの。でも、これはふたりだけのヒミツ。

お父さんは、薬草入りのパンを焼くのが大好き！ 町の人たちが喜んでくれるから。

お酒を飲みすぎた時のギザギザ葉っぱのパン。

食べすぎ太っちゃよさんご用達のちよつと苦いパン。

赤ちゃんができた幸せお母さんの栄養たっぷりパン。

おとしよりが元気になる蜂の巣のパン。

眠れない時のパンも、悲しい時のパンもあったよ。

マリーが一番好きなのはもちろん 幸せな気持ちになれるパン！

幸せパンを食べるとね、いつだってまったりと幸せになれるもの。

「不思議なパンだねえ」

と聞くとね、お母さんはいつもシーと指を立てて、

「今は内緒だよ。いつかマリーが大きくなったら、作り方を教えてあげるね」

と、頭をなでてくれました。

やがて、マリーは娘になりました。

そして、教会に黒い嵐がやって来たのです。

対抗宗教改革？ マリーにはよくわかりません。

町の牧師さんたちが縛られて、黒い森へ連れて行かれました。

町からは、笑い声が消えました。

「もう硬い塩のパンしか作ってはいけない」

と、偉い人から命令されました。

お父さんもお母さんも悲しそう。町の人たちだって悲しそうです。

ある日、教会に新しい神父さまがいらっしやいました。でもマリーは嫌いです。

だっていつも怒ってばかりだもの。いつもマリーをにらむもの。

「幸せパンを食べたいなあ」

マリーは我慢しました。だって森に入ると魔女にされちゃうもの。

縛られた町の人たちが黒い森へ連れて行かれるのを、マリーは何回も見ました。

マリーのお気に入りのお服を作ってくれた服屋のおじさんも、

いつも賑やかな笑い声があふれていた居酒屋のおばさんも、

マリリーの誕生日に木彫りのお人形をくれた木こりのおじいさんも、

みんな黒い森から帰ってきませんでした。

ある雨の日、赤いマントに赤い面をつけた兵士たちが、マリリーを教会に連れて行きました。マリリーを逃がそうとしてくれたお父さんとお母さんはひどく殴られ、マリリーが叫んでも動かなくなっていました。

マリリーは赤いマントでグルグル巻きにされて、口には大きくて硬い木の実を入れられたまま、荷馬車に乗せられて教会へと連れて行かれました。

教会はとても嫌な臭いがありました。前はあんなにうれしい香りがしていたのに。そして、とても寒い。マリリーは海の底のような寒気がして、鳥肌が立ちました。

そんなとき、怒りん坊の神父さまが現れて、マリリーを指さして「こいつも魔女だ！」と、たったひと言叫びました。

マリーにはわかっていました。だから、あきらめました。ひざまずいて、イエスさまに父と母の無事を祈りました。

イエスさまも泣いてくれました。

イエスさまの手の温もりを感じながら、教会で最後の夜を過ごしました。

何か大変なことが起こりましたが……悪魔たちが……もう覚えていませんでした。

翌朝、荷馬車に乗せられて森へと連れて行かれました。

黒い森の奥深くへと……お母さんとも来たことのない真つ暗な森でした。

そこにはたくさんの墓標が逆さまに立っていました。

マリーも両手を縛られたまま鉄の棺桶かんとけに寝かされました。

「お母さんのロザリオとお花をいっぱい入れてほしかったなあ」

本当に魔法使いだったらよかったのになあ……

重い鉄の蓋が永遠の暗黒の中にマリーを閉じ込めました。

ガン……ガン……

太い鉄の釘を打ちつける金槌かなづちの音が棺桶の中に響きます。

耳をふさぎたいけど、両手は固く縛られています。

ガーン……ガーン……

涙があふれ出てきました。

「もう泣いてもいいのだよ」

イエスさまの声が聞こえてきました。

「柔らかくて温かい涙は、愛しいお母さんとお父さんへ届けましょう」

イエスさまが約束してくださいました。

棺桶が大きく揺れて……深い深い地の底へと降りていきます。

「誰かお別れのお祈りをしてほしいなあ」

荒々しく土が被っていく音が止むと……もう何も聞こえなくなりました。

「息が苦しいよ」

イエスさまが幸せパンを食べさせてくださいました。

お母さんのこと、お父さんのこと、楽しかったいろいろなこと……

マリーはそのまま永遠の眠りにつきました。

あれから何百年経ったことでしょうか、
誰かがマリーの眠りを覚ましました。

黒いショートヘアで茶色の目、黄色い肌のほっそりした女性が、マリーの魂に話しかけています。

「さあ、あなたの魂はもう自由ですよ。天に向かって昇っていきましよう」

マリーには、それは妖精に見えました。

「妖精さん、こんなにしつかりした鉄の箱に閉じ込められているのだから、私は外へは出られないのです」

「マリーちゃん、あなたはもう肉体を持っていませんよ。あなたは魂だから、どんな壁でも通り抜けられますよ。ほら！ こっちへ来て！」

「妖精さん、そんな無理なこと言わないで……」

「マリーちゃん、大丈夫ですよ。ほら！ 私の手につかまって！」

フワツとしたマリアさまのような優しい手がマリーの魂に触れると……

スウーっと、マリーの魂は森の上に浮かんでいました。

あの恐ろしく黒かった森の木々は、やせ衰えたおじいさんの髪の毛のように、まばらになっっていました。そして、遠くに懐かしい教会の塔が見えます。あそこがマリーの故郷でした。

「お母さん、お父さん！」

マリーは、一瞬で町の上に行くことができました。眼下に広がる町は……別世界でした。そこは現代の町でした。

「私の町はどこ？」

また一瞬で景色が変わって、マリーが暮らした町が見えました。

「お母さん、お父さん！」

お母さんとお父さんとあの頃のマリーが楽しそうに暮らしているのが見えました。

お母さんは薬草を刻んでいます。お父さんはいろいろなパンを焼いています。

「幸せパン！」

マリーが叫ぶと、あの懐かしい幸せパンの香りと味が、魂の中に湧き出してきました。

地上のマリーもお父さんのまわりをピョンピョン跳びはねながら、幸せパンをほおばっています。

「幸せだったんだあ。私、本当に幸せだったんだね」

天からとても大きな眩しい光の珠がゆっくりと降りてきました。

光の珠の中からイエスさまが現れて、マリーの魂を手招きしています。

「幸せ。よかったあ。とっても幸せです」

マリーの魂はそう言い残すと、光の珠の中に消えていきました。
地上に広がっていたマリーの世界も、眩しい光の珠の中に吸い込まれていきました。
マリーのすべてが今、大いなる光の中へと戻っていったのです。
「とっっても幸せでした」

マリーの声だけがいつまでも、その時空に響いていました。

◆死に方の秘伝

この死に方だけは避けましょう

- ① 誰かを、何かを呪いながら、恨みながら死ぬこと。
- ② 重い懺悔ざんげや後悔を抱えたまま死ぬこと。
- ③ 深い悲しみの中で、納得できないまま死ぬこと。

これらの死に方はどれも、

自分の人生を否定し、

自己を否定し、
生そのものを否定してしまいます。

呪いや恨みの中に、愛はありません。

懺悔と後悔の中では、愛は生きられません。

深い悲しみは、愛を涙色に染めてしまいます。

虚無にまで至ってしまうと、愛はミイラになってしまいます。

どの魂も、死んで肉体から宙へと浮かび上がれば、天へと昇っていきます。

天へと向かいながら、神さまと同じ視点から今生を見下ろします。

それは、今生の自己採点です。

落第点をつけると、再び同じ人生を繰り返します。

今生の生まれるところまで戻って、やり直します。

人生を演劇や映画にたとえると、リメイク版の同じ主人公になることもあります。

同じ人生の中の兄弟や父母、親友や恋人といった別の役柄を演じることで、より客観視

して主人公の人生を見つめ直すということもあります。

同じ人生の中で出会ったベットなどの動物の素直な目で主人公を見ることで、大きな気づきを得ようとすることもあります。

これらも、輪廻りんねてんしやう転生てんしやうです。

同じ人生を何百何千回と繰り返していることもあります。

いつも必ず生まれるところから繰り返すとは限りません。

人生には、いくつもの節目かんせきがあります。

落第点らくだいてんになってしまった肝腎かんじんな節目から、人生を繰り返すこともあります。

九九の暗唱で、「クシチ六十三」で失敗した時、再び「二ニんが四」からチャレンジすることも、九の段である「ク二十八」からチャレンジすることもあるわけです。

人生の自己採点ですから、人生を否定、自己を否定、生を否定するのは、無記名で白紙回答するようなものです。

恨みや呪いが強いと、採点表をビリビリと切り裂いてしまおうでしょう。懺悔と後悔が重いと、採点表を握りつぶしてしまうでしょう。深い悲しみの涙は、採点表をびしょびしょに濡らしてしまうでしょう。虚無に至ると、採点表は愛と共に虚空へと消えてしまいます。

人生の自己採点なしには、この人生をしめくくることはできません。

自己採点ですから、魂が「これで合格！」とすれば、この人生を終えることもできます。神さまが決めた合格ラインはありません。自分で合格だと納得できれば、それで合格です。神さまの目や他の魂たちの目を気にすることはありません。

自分で「この人生をやり終えた！」と納得できれば、神さまも他の魂たちも、ここから祝福してくださいませ。なぜなら、この宇宙は慈愛の宇宙だから。神さまも魂たちも、その本質はすべて慈愛です。

善き死に方は、

- ①感謝に満ちています。
- ②満足感でいっぱいです。

③ 祝福と賞賛「よくがんばった」の声があふれています。

今生を生き抜いてきた自分からの祝福とリスペクトが大きいため、自己採点も高得点です。

自画自賛でよいのです。

「そんなものなの？」

「はい、そんなものです」

感謝、満足感、祝福とリスペクトは、それぞれが慈愛の分身です。

そこに慈愛があれば、善き死に方です。

どこにも慈愛がなければ、悪しき死に方です。

死後、天上の大きい光に向かって昇っていく魂には、善き面と悪しき面が見えます。

生前によほどの修行を積んで解脱げだつ覚醒しないかぎり、人間ですから善き面も悪しき面も持ったまま死を迎えます。

魂の善き面の波動が悪しき面の波動よりも高い魂は、善き面が広く大きくなります。

魂の悪しき面の波動が善き面の波動よりも強い魂は、悪しき面が広く大きくなります。大いなる光に善き面が向いている魂は、大いなる光が放つ眩しく美しい光にグイグイと引き寄せられていきます。

大いなる光に悪しき面が向いている魂には、大いなる光との間に、大砂嵐のような波動の乱れの壁が立ちほだかります。

大いなる光と魂の悪しき面は反発しあい、ついには墜落するように同じ人生に転生してしまいます。

これも輪廻転生が続く、ひとつの理由です。

最近、「光の前世療法」でこの大いなる光へと昇っていく時に、光のトンネルが見える人が増えました。このトンネルは、魂が次の次元へとシフトする際に通る光のトンネルです。このトンネルを通る魂は、別の次元での転生が待っています。それは同じ地球での転生かもしれませんし、別の星、別の生命体や意識体に生まれ変わっての転生かもしれません。そして魂の旅は、まだまだ続きます。

トンネルではなく、大いなる光そのものへと迎えられる魂は、転生を終えます。魂は、大いなる光とひとつに溶けあって、長かった旅を終えます。

また、最近では認知症のまま亡くなる老人が増えました。

認知症になると、呪いや恨みも、懺悔や後悔も、深い悲しみも忘れてしまいます。

伴侶や子どもの顔や名前を忘れてしまうのは、この世で見送る人たちにとっては寂しいものですが、あの世へと旅立つ人が悪しき死に方をしないでいてくれることは、とても喜ばしいことです。精いっぱい慈悲を込めて見送ってあげることができれば、きっと感謝と満足に満たされながら旅立っていかれることでしょう。

「よい人生でしたね」「よくがんばりましたね」「ありがとう」と祝福と賞賛の声で見送ってあげれば、大いなる光の中へとスッと入ることができます。

死へと旅立つ方を見送る際には、

その方との楽しかった思い出を語りかけましょう。

その方への感謝の思い出を語りかけましょう。

その方と一緒にがんばった思い出を語りかけましょう。

その方との愛の思い出を語りかけましょう。

「ありがとう」の言霊が、死へと旅立った魂を天国へと導いてくれます。

◆死に方の秘伝

善き死に方をしましょう

死のステップ2

想念の現実化 初級コース



死ぬと、魂が肉体を離れます。

魂が宙に浮かぶと、誰でも想念の現実化を起こせます。

あなたが思い描いたとおりの世界、望んでいたビジョンの中に、あたかも生きている自分がいるかのように思えます。